

No. 07

総合病院 土浦協同病院
広報誌 touch (タッチ)
TAKE FREE

touch

contents

ふれあい：土浦の蓮田

かけはし：渡辺内科



特集：母体と小さな命を守る —総合周産期母子医療センター—

母体と小さな命を守る

総合周産期母子医療センター

■ 周産期医療とは

周産期とは、妊娠22週から出生後7日間の間を指します。この期間は母子ともに何らかの異常を生じやすく、緊急の対応が必要になるケースもあります。そこで産科と新生児科の医師が連携して、産前から産後、生まれた赤ちゃんまで総合的に診療を行うのが周産期医療です。

妊娠・出産の90%は特別な医療の介入を必要としない正常分娩ですが、残りの10%が専門的な医療を必要とするハイリスク妊娠・新生児になります。

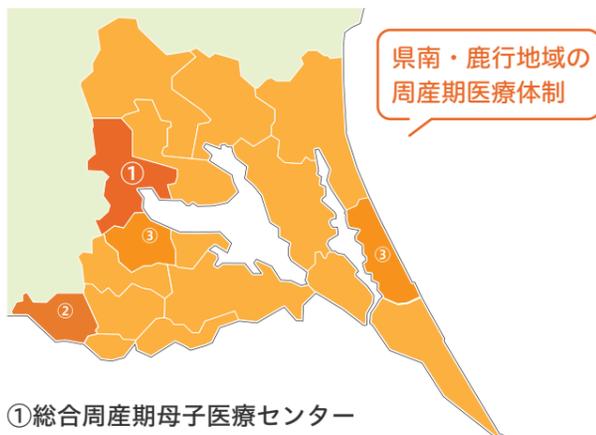
茨城県は県内を県央県北・つくば県西・県南鹿行の3つに分けて、それぞれのエリアに高度医療を担う総合周産期母子医療センターを設置。ハイリスク妊娠・新生児に対応できる体制を整えています。

■ 当院の周産期医療

土浦協同病院は、平成17年に総合周産期母子医療センターの指定を受け、主に県南・鹿行地域のハイリスク妊娠、ハイリスク新生児を受け入れています。母体と小さな命を守る、当院の総合周産期母子医療センターを紹介します。

■ 周産期医療体制

低出生体重児や高齢出産の増加による周産期医療の需要増加と、分娩取り扱い施設の減少や偏在による一部医療機関への分娩の集中が課題となって整備された。医療資源の適切な提供を目的としている。



県南・鹿行地域の周産期医療体制

①総合周産期母子医療センター

土浦協同病院

高度かつ専門的な医療を担当する中核施設

②地域周産期母子医療センター

JA とりで総合医療センター

比較的高度な医療を担当する施設

③周産期救急医療協力病院

1. 東京医科大学茨城医療センター

2. 小山記念病院

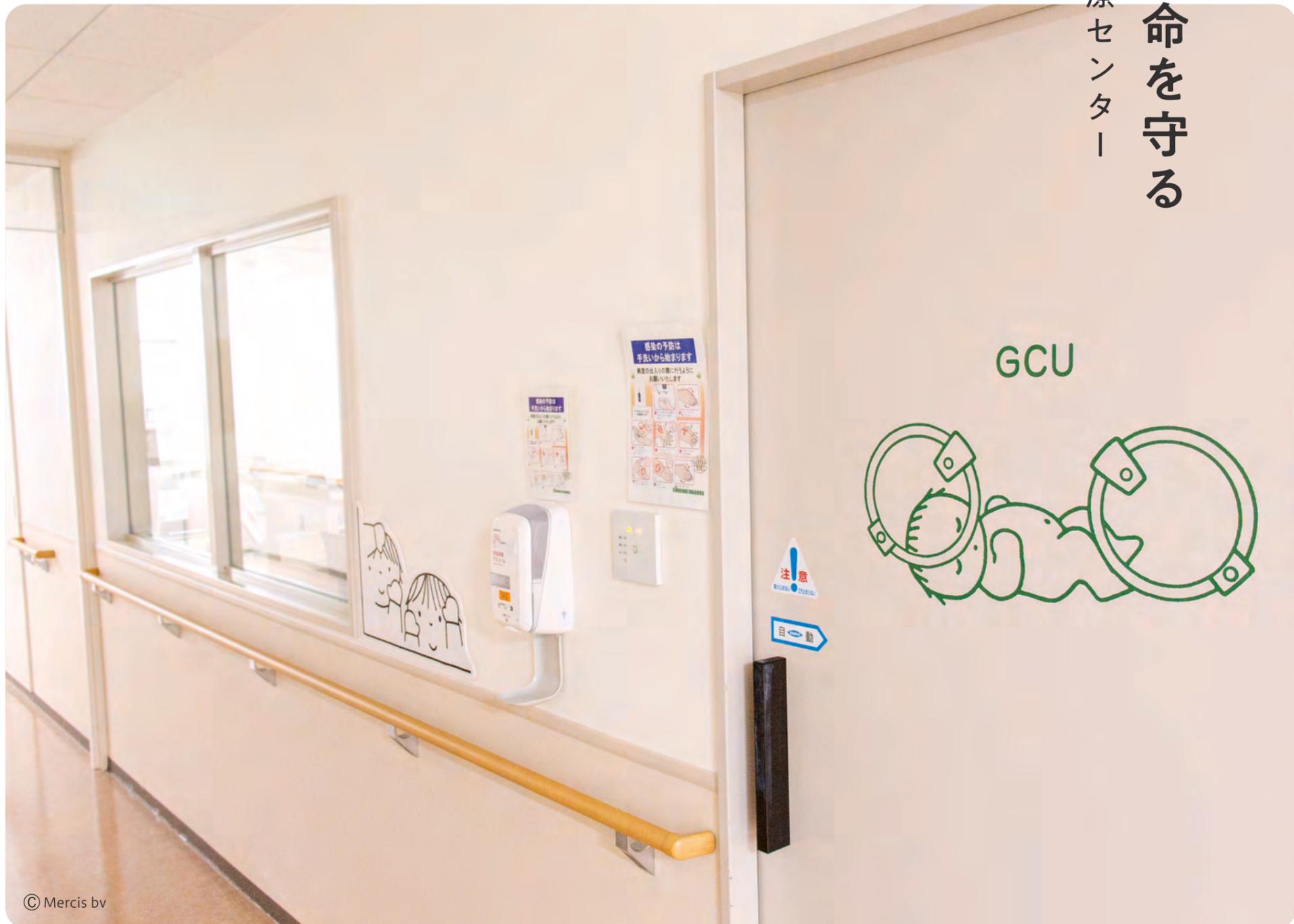
軽症の救急患者受け入れを担当する施設

■ ハイリスク妊娠

母体や胎児の生命が危険にさらされたり、重篤な合併症を引き起こす可能性が高い妊娠（妊娠高血圧症や前置胎盤、切迫早産など）のこと。ハイリスク妊娠の原因は多様で、総合的な診察が重要になる。

■ ハイリスク新生児

早産や低出生体重児、先天性疾患、様々な外科系疾患など、生命の危険や何らかの合併症の可能性が高い状態で生まれてくる新生児。



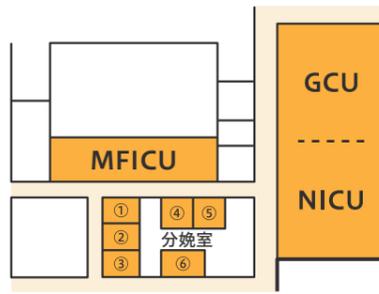
© Mercis bv

当院の特徴

母体と小さな命を守る

① 施設・設備

新病院では、総合周産期母子医療センターの施設をワンフロアに集約し、母子を切れ目なくフォローすることが可能になりました。救急外来や手術室とも直通エレベーターで繋がりが、超緊急帝王切開手術や母体搬送受け入れもスムーズな導線で行えるようになりました。



総合周産期母子医療センター

MFICU (母体胎児集中治療室) …	6床
NICU (新生児集中治療室) ……	12床
GCU (回復治療室) ……………	25床
分娩室 ……………	6室

② 総合力

他科との緊密な連携

産科と新生児科の連携はもちろん、総合病院の強みを活かした横断的な診療が当院の特徴です。

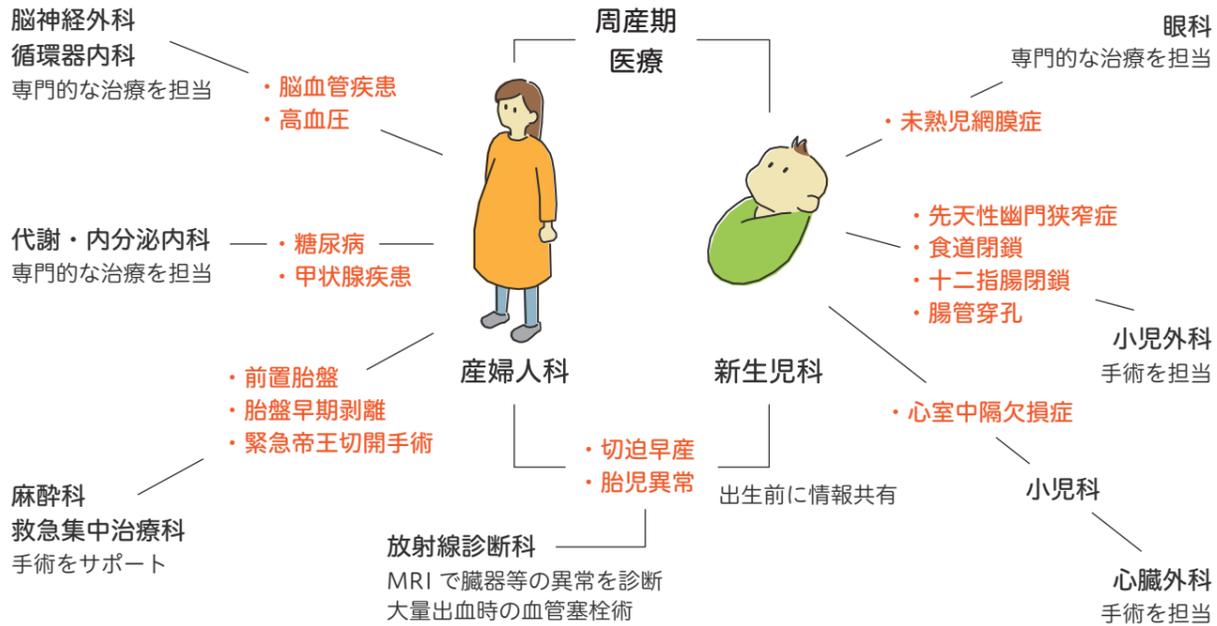
産科においては妊娠高血圧症や糖尿病など、産科合併症以外の様々な合併症を有する妊婦さんにも対応可能。他科専門医との緊密な連携によって幅広い疾患に標準的な治療を行うことができます。

ハイリスク新生児は、何らかの先天性疾患をもっている場合があります。これらの内科的・外科的疾患に対しても、各診療科の専門医が力を合わせて診療にあたっています。

チームの力を結集

診療科の連携に加え、医療スタッフ同士の連携も当院の特徴です。医師をはじめ、助産師、看護師、社会福祉士、臨床心理士などがそれぞれの専門領域で妊婦さんや赤ちゃんをサポート。

チームの力を結集して、安全で安心なお産を提供できるよう心がけています。



※上記以外にも妊婦さんや胎児・新生児の状態にあわせて、関係する全ての診療科と連携しています。

③ 緊急対応

「周産期搬送コーディネーター」



当院では、ハイリスク妊娠や高度な新生児医療が緊急に必要と判断される患者さんの受け入れ先選定を担う、周産期搬送コーディネーターを配置しています。近隣の医療機関から依

頼を受け、症状やベッド状況を考慮して搬送先の調整・決定を行います。それぞれ役割の違う周産期医療施設が連携して、迅速かつ適切な医療を提供することが目的です。特に夜間・休日の受け入れが困難な時間帯のカバーに効果を発揮します。

母体搬送受入件数

緊急搬送 **118** 件

外来紹介 **7** 件

※平成29年1月～12月の件数

⑤ 実績

「総合周産期母子医療センターとして」

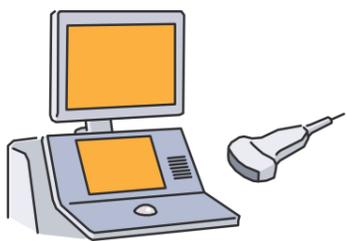


平成17年に総合周産期母子医療センターに指定されてから、24時間体制で多くのハイリスク妊娠・新生児を受け入れてきました。近年はハイリスクに限らない正常分娩も含めた分娩件数が年間1300～1400件

となっております。非常に多くの分娩を受け入れていきます。新生児の受け入れは、母体搬送や外来紹介による院内出生が137件、他院にて出生後に紹介となった院外出生が86件となっております。特に県南・鹿行地域からの搬送や外来紹介が多く、総合周産期母子医療センターとしての役割を果たしているよう努力しています。

④ 外来紹介

「ハイリスク胎児エコー」



産科の診療にとって超音波検査は欠かせません。妊娠期間中に何度も行うことで、胎児の状態を定期的かつ経時的に観察します。エコーは動いた状態を観察できるので、特に心臓の異常などを発見するのに有効です。

当院では、妊婦健診で異常が疑われる胎児を対象にハイリスク外来エコーを実施し、可能な限りハイリスク新生児の発見に努めます。また、近隣の医療機関からの紹介（ハイリスクの可能性がある妊婦さん）も積極的に受け入れています。

周産期母子医療センター診療実績等

総分娩件数	1329 件
帝王切開数	371 件
多胎分娩数	37 件
新生児入院数	266 件
低出生体重児	161 件
(極低出生体重児)	43 件
(超低出生体重児)	19 件
院内出生数	137 件
院外出生数	86 件

※平成29年1月～12月の件数

県内の新生児医療を充実させるために

新生児科部長 今村公俊

新生児科では、主に県南・鹿行地域の早産、低出生体重児、先天性疾患を含めたハイリスク新生児の診療と救命診療を担当しています。産科に紹介されて当院で出産した院内出生と、他院で生まれて新生児科に紹介されてくる院外出生の両方が対象です。

周産期医療では産科と新生児科の連携が重要になります。当院では週1回の合同カンファレンスによって、両科の医師、助産師、看護師が患者さんの情報共有を行っています。ハイリスクで生まれてきそうな場合には産前から介入し、看護師が両親にNICUでの入院生活について前もって説明します。疾患によっては新生児科医が状態の説明を行い、少しでもご家族の不安を取り除けるよう努力しています。

当院の特徴として、新病院になってNICU・GCUが拡充されたのも大きな要因ですが、ベッドコントロールに力を入れるこ



とで、県南・鹿行地域はもとより、エリア外からの要請も極力断らずに受け入れを行っていることがあげられます。未熟性による疾患だけでなく、手術が必要になる何らかの合併症をもった新生児も積極的に受け入れていきます。外科疾患への対応は、小児外科をはじめとする他診療科との協力が不可欠ですが、当院の連携体制は非常に良好で、いつも助けられています。

施設や設備も充実し、病院全体の協力もあって診療はとてもスムーズに行えるようになってきました。社会福祉士や退院調整看護師の力も借りて、以前あったような退院が滞ってしまう事態も徐々に減少してきました。そんな今だからこそ、ローテーターとして若い医師を迎え入れ、新生児科医として育てていければと考えています。当院で学んだ医師が県内各所で働くことによって、ひとつの病院に患者さんが集中するのではなく、地元で診療ができるようになれば様々なメリットがあります。診療はもとより、そういった教育という側面においても当院が拠点となって、県内の新生児医療を充実させていくことが今後の目標です。

院内外の連携が周産期医療を守る

総合周産期母子医療センター長
兼産婦人科部長 坂本雅恵

総合周産期母子医療センターとして、当院ではふたつの役割を担っていると考えています。

まずはハイリスク妊娠への対応です。ハイリスクとなる原因は様々ですが、主な理由として高齢出産の増加があげられます。高齢になると合併症の起こる可能性が高くなります。合併症は元々の持病によって起こる偶発合併症と妊娠期間が進んで発症する産科合併症に大きく分けられますが、当院は総合病院の強みを活かした幅広い偶発合併症への対応が特徴です。特に高齢出産では、高血圧や糖尿病などの内科的合併症が増える傾向があり、産科だけでは対応しきれない妊婦さんにも総合的な診療を行うことができます。産科合併症においても、前置胎盤や胎盤早期剥離、超緊急帝王切開手術など出血や輸血を伴うものは麻酔科や救急科との連携が力を発揮しています。

もうひとつの役割として、ハイリスクに限らず地域のお産全



体を守っていくということがあげられます。近隣の分娩施設の減少に伴い、ローリスクの分娩も当院へ集中する傾向があります。ただ、健診から全てを当院だけで行うのは、待ち時間や遠方からの通院など妊婦さんの負担にもなってしまう。そのため、ローリスクの場合には、健診を近くの医療機関がフォローし、分娩を当院で行う、といった役割分担もしています。幸い、近隣の医療機関との丁寧な情報交換を心掛けることで、スムーズな連携を実現できています。連携の強化によって、ハイリスクに移行する兆候があれば早期に当院の外へ紹介してもらおう体制も整い、危険な状態になる前に充分なリスク管理ができるようになりました。

妊婦さんは第一に「何かあった時に対応してもらえ」という安心感を求めています。今後も分娩の集中は進んでいくと思いますが、ひとつの病院だけでなく全てを解決できるわけではありません。自分の住む地域で、出来るかぎり負担なく安心してお産に臨める。そういった体制を整えていくためには、医療機関や行政のさらなる連携が必要になってくるでしょう。

**伝えられる看護師を
目指して**

NICU・GCU病棟は早産、低出生体重児、何らかの先天性疾患をもって生まれたお子さんが入院する病棟です。治療を助けるケアのほか、お子さんの成長と発達を促すケアも私たちの役割です。生後間もない新生児が看護の対象になりますので、言語によるコミュニケーションは難しく、表情やバイタルサインをみて、会話ではなく対話する

勤続年数：7年 趣味：登山、ライブ鑑賞

ことが大切と考えています。昨年、新生児集中ケア認定看護師の資格を取得しました。赤ちゃんのケアを今後も続けていくにあたり、自分が日々行っている看護の必要性や理由について、確かな根拠をもって伝えられる看護師になりたい、と思ったのがきっかけです。特に、大切なお子さんが入院されているご家族は大きな不安を抱えていると思います。伝える力を磨くことで、少しでもその不安を緩和できれば嬉しいです。

看護部 no.13
新生児集中ケア認定看護師 上野ゆき



土浦の蓮田

茨 城県はレンコンの生産量が全国一となっています。東京都中央卸売市場に出荷されるレンコンの9割は茨城県産で、なかでも土浦市は県内一の生産量を誇ります。レンコンは蓮の根ではなく、地下茎とよばれる茎がふくらんだもので、水を張った泥の中で育ちます。その環境によって気孔が発達し、あの特徴的な穴が形成されます。レンコンは栄養価も高く、ビタミンCやB6、食物繊維が豊富に含まれる健康食品です。また、酢の物や揚げ物、

炒め物から煮物まで、色々な料理に応用できる万能野菜でもあります。

日本一レンコンを生産する市、土浦。主に霞ヶ浦湖畔で栽培され、この土地の肥沃な土壌と高い水温が、おいしいレンコンを育てるのに適していると言われていました。市の特産品として、麺、漬物、お茶、粉末、お菓子などバラエティに富んだ加工品の数々も作られ人気を博しています。7月から8月にかけて咲く蓮の花は、土浦ならではの夏の風物詩のひとつです。

ふれあい
地域とふれあい、地域を知ろう



土浦の蓮田
茨城県土浦市（木田余、手野、田村、沖宿地区）

治療に専念できる 環境づくりを心がけて

臨床工学技士の役割は、医師の指示のもとで行う生命維持管理装置の操作、それらの保守・点検作業です。そのなかでも血液浄化業務を主に担当しています。血液浄化センターや病棟、ICUでの血液透析全般のほか、血漿交換や血液吸着など、その他の血液浄化療法も行っています。また、血液疾患に対する骨髄移植や末梢血幹細胞移植にも関

勤続年数：22年 趣味：釣り

わっています。血液浄化センターで透析を受ける患者さんは、週3日4時間の血液透析が必要で、通院が日常になっています。だからこそ、いい環境で治療を受けられるよう気を配っています。顔見知りの方も多くいるので、なおさら元気でいてほしいと思います。医療機器の進歩はめざましく、常に新しい知識と技術が欠かせません。より良い医療を提供するために、今も学び続けています。

no.14 臨床工学部
臨床工学技士 主任 黒須唯之





かけはし

地域の健康をまもる
連携医療機関の紹介

Vol.09

渡辺内科

住 所：茨城県石岡市南台3丁目34-55
電 話：0299-26-7760
診 療 科：内科
診 療 時 間：午前／10:00～12:00
午後／14:00～17:00
休 診 日：土曜午後、日曜、祝日

長い透析人生の間には種々の合併症が発症し、紹介状を持たないまま患者さんが直接救急外来を受診することもしばしばあります。土浦協同病院の救急担当の先生や職員の方々には、いつも親切且つ適切に対応していただき感謝しております。

土浦協同病院は地域の中核病院として患者さんの信頼も厚く頼りにされており、今後も緊密な連携とご協力をよろしくお願いいたします。

ご挨拶

渡辺内科は平成5年3月に血液透析療法を行う診療所として石岡の地に開設しました。遠方の病院まで通院していた患者さんにとって、透析が始まることによる週3回の定期的通院は大変な負担となります。当院では高齢者や独居者など通院困難な方には送迎を行っており、また誕生日には小さい花束を贈ったりと、家族的に過ごせるよう心掛けています。

アクセスマップ



渡辺 孝太郎 院長



当院の接遇委員会が日本総合研究所『第3回接遇大賞』を受賞しました。

日本総合研究所が行っている接遇大賞にて当院が大賞を受賞しました。平成29年に接遇委員会が主体となってロールプレイを用いた職種別接遇研修を開催し、多くの職員が参加しました。その活動が評価され、このような結果に繋がりました。

接遇大賞をいただきましたが、私たちの接遇活動はまだ始まったばかりです。患者様が気持ちよく積極的に治療を受けられることを職員全員が共通目標とするように、接遇に取り組んでまいります。以下に受賞施設として紹介された記事を掲載します。

touch
news

第3回 日総研

接遇
大賞

受賞施設の紹介

現場発案のオリジナリティに富む工夫を、受賞施設の担当者にお聞きしました。

診療場面「良い例・悪い例」のロールプレ研修で、医師の接遇向上にチャレンジしています。

茨城県厚生農業協同組合連合会
総合病院 土浦協同病院
接遇委員会



各部署より選出された接遇委員会メンバーが話し合い、患者さんにとっては「診療室の中の接遇」が一番重要だと結論に。そこからチャレンジが始まりました。

最もインパクトの強い「医師の接遇」から改善を始める

患者さんやそのご家族が、病院で受ける「最も強いインパクト」は医師の言葉や態度です。その証拠に、患者様の投書では「〇〇科の△△医師」とはっきり名指しされることが多くあります。医師の接遇研修はこれまでタブー視されてきたようですが、私たちは必要なところから着手するという強い意志を持って、医師の接遇研修を開始しました。

患者様の投書内容に基づいてシナリオを作り、医師のロールプレ研修を行う

全職員の前でNG編とOK編のシナリオを医師が自ら演じました。NG編の、①患者と向き合わずパソコンのモニターばかり見ている「データ打ち込みが何より医師編」、②患者の言葉の揚げ足を取り横柄な態度の「あんた何様？お医者様編」は爆笑ものでした。

コ・メディカルと看護師対象では「患者だけじゃないのよ接遇は」、「口癖は、担当じゃないから」といったシナリオで行いました。いずれも、どこが悪かったかの質問と解説をし、OK編で言葉づかいや態度を確認します。

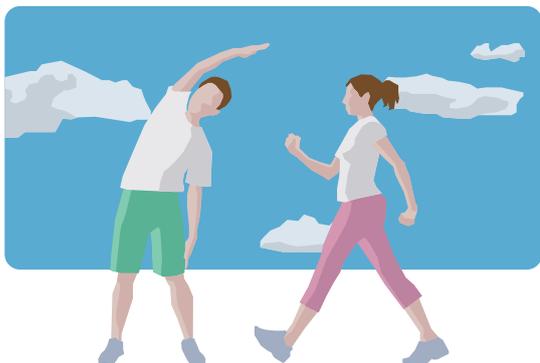


客観的に見ることで日々の診療の振り返りに

ロールプレ研修参加者の96.5%が、今後の職務に生かせると回答しました。「通常の研修会よりわかりやすく、あるあると興味を持って参加できた」「同じ場面でも言葉の使い方や態度で伝わるのがまったく違うと感じた」など、今後の接遇を考える機会となりました。

接遇委員会のメンバー（ロールプレ出演者）も楽しみ、一体感が生まれてきた

接遇委員会設立2年にして思いがけずも接遇大賞を頂いたことで、自ら接遇のハードルを上げてしまいプレッシャーを感じています。私たちは、患者様が気持ちよく積極的に治療を受けられることを職員全員が共通目標とするように、また一から接遇に取り組んで参ります。



日時：平成 30 年 10 月 13 日（土）9:00 ～ 13:00
（一人 40 分程度）

場所：土浦協同病院リハビリテーション室

対象：歩行、日常生活が自立している 50 歳以上の方

内容：問診、体力測定、個別運動指導

定員：40 名（先着順）

お申し込みは氏名、住所、電話番号、参加経験の有無を記入し、はがきにて下記住所までご郵送ください。応募の締め切りは平成 30 年 9 月 7 日（金）になります。また、定員に達した後の応募に関しては、こちらからその旨ご返信させていただきます。

〒300-0028 茨城県土浦市おおつ野 4 丁目 1-1
土浦協同病院 リハビリテーション部

お問い合わせ：土浦協同病院 リハビリテーション部 029-830-3711

touch

No.07

平成 30 年 6 月 30 日発行



患者さまの声

→ voice

小児科待合のところに子供が飽きずに待ってられるよう DVD を観られるテレビ、おもちゃ、本など、なにかあると助かります。

← answer

現在、小児科待合にキッズスペースを設けていないため、大変ご不便をおかけしております。

おもちゃ、本などについては、感染予防の観点から設置することができません。DVD を視聴できるテレビの設置につきましては、今後も検討してまいります。貴重なご意見を頂き、ありがとうございました。



土浦の蓮田

｜ 編集後記 ｜

表紙の写真は NICU・GCU 病棟での様子になります。ご家族の了承をいただき、素敵な写真を撮ることができました。ご協力ありがとうございました。

touch（タッチ）は土浦協同病院の広報誌です。タイトルには、地域とふれあい、私たちの理念を地域の皆様に届けたい、という願いを込めました。

発行所／総合病院 土浦協同病院
編集／病院機関誌委員会 地域医療連携室
発行人／酒井義法
MAIL／general@tkgh.jp